

— 三世代交流お団子づくり —

1. 目的と経緯

目的…園児・保護者・祖父母世代と一緒に活動する機会を設け、日頃からつながりのある関係性を基盤に、世代を超えた温かな交流を深めるとともに、子どもたちが見守られながら育っていることを実感できる機会とする。

経緯…当園では、秋の十五夜に合わせた行事として、以前から毎年「三世代交流お団子づくり」を実施してきた。保護者や祖父母の方々が日常的に送迎や行事を通して園に関わってくださっていることから、世代間のつながりを生かした恒例行事として定着している。今年度も、祖母世代の得意分野であるお団子づくりを通し、家庭的で温かな交流が自然に生まれることをねらいとして実施した。

2. 内容

開催日時…令和7年11月5日水曜日 13時30分～

開催場所…さくら保育園 園内

【活動内容】

本行事は、年少・年中・年長のクラスごとに実施した。保護者が集まり次第、お団子の作り方や当日の流れについて説明を行い、説明が終わったクラスから順に調理を開始した。

活動では、お団子づくりに慣れている祖母の方々が上新粉を混ぜたり捏ねたりする工程を中心となって担い、子どもたちは教えてもらいながら一生懸命にお団子を丸める姿が見られた。成形後は調理室で茹でてもらい、茹で上がりまでの間、保護者と子どもたちは園庭で一緒に遊びながら待ち時間を過ごし、その後、出来上がったきなこ団子とあんこ入りのお団子をみんなで味わった。

大小さまざまな形のお団子を笑い合いながら食べる中で、終始和やかな雰囲気のもと、三世代の交流を深めることができた。

3. 成果と課題

【成果】

・祖母世代が中心となって活動を進めることで、家庭的で落ち着いた雰囲気の中、自然な三世代交流が生まれた。

・子どもたちは、祖母や保護者に見守られながら安心して活動に取り組み、自分で作ったお団子を嬉しそうに何度もお替りする姿が見られた。

・大きいものや小さいもの、不格好な形など、それぞれのお団子の違いを楽しみながら食べることで、会話や笑顔が広がった。

・保護者にとっても、園での子どもの友達関係や関わり方を身近に見る良い機会となった。

【課題】

・調理を伴う活動であるため、手洗い後になるべく他の物に触れないようにするなど、衛生管理をより一層徹底していく必要がある。

